

長崎市
NAGASAKI



第二次長崎市農業振興計画 [前期計画]

【令和4年度～令和7年度】

長崎市水産農林部

第二次長崎市農業振興計画〔前期計画〕の策定にあたって

長崎市の農業は、農地の大半が急傾斜の山腹に階段状に展開し、平坦地が少ないという地理的に厳しい条件にあります。長崎びわ「なつたより」や「長崎和牛・出島ばらいろ」をはじめ、「いちご」「花き」などの新たな品目のブランド化や、産地や関係機関と連携した新たな担い手の育成確保の取り組みなど、農業に携わる皆様のご尽力により、一定の成果が上がりつつあり、地域の農業の将来のあり方を共有してまとめあげる「人・農地プラン」の実質化により、次の世代へよりよい形で農地を引き継ぐための話し合いも進んでいるところです。

今日の食料・農業・農村をめぐる情勢は、農業者や農村人口の著しい高齢化・減少、これに伴う生産基盤の脆弱化への懸念、TPP 等グローバル化の進展、激甚化する自然災害・気候変動など農業を取り巻く環境の変化に加え、SDGs に対する国内外の関心の高まり、ロボットや AI 等の ICT 技術活用の進展などの社会的要因も大きく変化しております。

長崎市のまちづくりにおいても、長崎新幹線や MICE 施設の開業などにより、今後の交流人口の拡大が見込まれており、これらの変化を新たな好機と捉えながら、上手く活かしていくことが重要になってきます。

第二次長崎市農業振興計画〔前期計画〕は、これらの変化を踏まえながら、長崎市第五次総合計画に基づく農業分野の実践的な計画として、「次世代につながる農林業を育てます」を基本施策として、「農業の生産性の向上と、次世代を担う多様な経営体の育成」を行う「産地・担い手」の視点、「安心して農業を営む環境づくりの推進」を行う「地域・環境」の視点、「長崎ならではの農産物の消費拡大」を行う「販売・消費」の視点の3つを施策の柱として、農業の活性化に向けた振興に取り組んでいくこととしております。

今後は、本計画を農業振興の基本指針として、市民の皆様をはじめ関係各位のご理解とご協力のもと施策の展開を図り、長崎市の農業の活性化につなげていきたいと考えています。

結びに、この計画の策定にあたり、貴重なご意見、ご審議をいただきました長崎市農業振興計画審議会委員の皆様をはじめ、ご協力やお力添えをいただいた皆様に心から感謝申し上げます。

令和4年（2022年）3月
長崎市長 田上 富久



目 次

第Ⅰ章 長崎市の農業の現状	1 ～ 20
1 計画策定の背景	3 ～ 5
1-1 策定の主旨	3
1-2 計画の位置づけと計画期間	4 ～ 5
2 長崎市の農業の現状	6 ～ 17
2-1 主な農産物の生産状況	6
2-2 農家戸数の推移	7
2-3 主副業別販売農家数	8
2-4 農業就業人口の推移	9
2-5 販売金額別農業経営体数	10
2-6 経営耕地面積規模別経営体数	11
2-7 経営耕地面積と荒廃農地の推移	12
2-8 農産物販売実績の推移	13
作物別の現状（マップ・果樹・普通作物・野菜・花き・畜産）	14 ～ 17
3 長崎市の農業が抱える課題	18 ～ 20
3-1 農業者の高齢化と担い手不足の深刻化	18
3-2 耕作放棄地の増加	18
3-3 有害鳥獣による生活環境被害の増加	18
3-4 農地・営農の課題	19
3-5 生産と消費	19
3-6 農業に対する理解	19
第Ⅱ章 第二次長崎市農業振興計画 施策体系	21 ～ 38
1 第一次長崎市農業振興計画〔後期計画〕の成果・課題及び今後の方向性	22 ～ 32
個別施策ごとの課題	30
第一次長崎市農業振興計画〔後期計画〕の体系	31
今後の方向性	32
2 第二次長崎市農業振興計画における農業の目指すべき姿	33 ～ 35
2-1 農業の生産性の向上と、次世代を担う多様な経営体の育成 ～「産地・担い手」～	33
2-2 安心して農業を営める環境づくりの推進 ～「地域・環境」～	34
2-3 長崎ならではの農産物の消費拡大 ～「販売・消費」～	34
3 第二次長崎市農業振興計画〔前期計画〕の体系	36 ～ 38

第Ⅲ章 個別施策と取組方針・取組内容	39 ~ 78
個別施策Ⅰ 農業の生産性を高め、次世代を担う多様な経営体を育てます	40 ~ 52
展開方針、背景・現状、課題、方針の考え方、達成にむけた取組イメージ	40 ~ 43
取組Ⅰ-1 産地の効率性・収益性向上による経営安定の推進	44 ~ 48
取組Ⅰ-2 多様な担い手の育成・確保	49 ~ 51
重点的取組み 多様な経営体が就農しやすい支援体制の充実と育成	52
個別施策Ⅱ 安心して農業を営める環境づくりを進めます	53 ~ 64
展開方針、背景・現状、課題、方針の考え方、達成にむけた取組イメージ	53 ~ 55
取組Ⅱ-1 人・農地プランに基づく農地の有効活用	56 ~ 58
取組Ⅱ-2 営農環境の保全と地域資源の活用	59 ~ 61
取組Ⅱ-3 有害鳥獣対策の推進	62 ~ 63
重点的取組み 人・農地プランの実質化による農業経営基盤の強化	64
個別施策Ⅲ 長崎ならではの農産物の消費を拡大します	65 ~ 74
展開方針、背景・現状、課題、方針の考え方、達成にむけた取組イメージ	65 ~ 67
取組Ⅲ-1 新たな販路拡大や消費拡大の推進	68 ~ 69
取組Ⅲ-2 長崎ならではの食材や食文化に対する意識の醸成	70 ~ 72
重点的取組み 効果的な情報発信による消費拡大	73
第二次長崎市農業振興計画の取組指標	75 ~ 78
第Ⅳ章 主な品目別の課題と振興方策	79 ~ 86
1 果樹	80 ~ 81
1-1 露地びわ	80
1-2 ハウスびわ	80
1-3 みかん・中晩柑	81
1-4 もも・なし・ぶどう	81
1-5 ザボン・ゆうこう・アボカド・レモン	81
2 野菜	82 ~ 83
2-1 いちご	82
2-2 アスパラガス	82
2-3 ミニトマト	83
2-4 野菜類（ばれいしょ・しょうが・新規野菜・伝統野菜等）	83
3 花き	84
3-1 菊	84
3-2 草花（トルコギキョウ・キンギョソウ・ストック・水仙等）・花木	84
4 畜産	85
5 農産物直売所	85

第V章 地域別の方向性	87 ~ 100
人・農地プランについて	88
茂木南部地区（千々・大崎・宮摺）	89
茂木北部地区（北浦・田手原・太田尾・飯香浦・茂木）	90
東長崎地区（矢上・日見・戸石・古賀）	91
三重地区（三重・式見）	92
旧市西部地区（手熊・柿泊）	93
その他旧市地区（旧市中央部・旧市南部・旧市北部）	94
外海地区（神浦・黒崎）	95
三和地区（川原・宮崎・藤田尾・為石・蚊焼・布巻）	96
野母崎地区（高浜・野母・脇岬・樺島）	97
琴海地区（西海・村松・長浦・戸根・戸根原・形上・尾戸）	98
伊王島・香焼地区（伊王島・香焼）	99
高島地区（高島）	99
第VI章 計画の推進体制	101 ~ 105
1 計画の推進について	102
2 関係者等の役割	102 ~ 104
2-1 生産者・地域の役割	102
2-2 農業関係団体等の役割	102
2-3 関連事業者（加工・流通・販売・食関連産業等）の役割	103
2-4 市民（消費者）の役割	103
2-5 長崎市の役割	103
2-6 長崎県への期待	103
2-7 国への期待	104
3 計画の推進体制イメージ	105

第七章 参考資料	107 ~ 146
1 計画検討の経緯	108
2 「長崎市農業振興計画審議会」名簿	109
長崎市農業振興計画審議会規則	110 ~ 111
3 審議会、関係機関からの意見	112 ~ 113
3-1 長崎市農業振興計画審議会	112 ~ 113
3-2 関係機関	113
3-3 パブリックコメントの募集	113
4 営農類型ごとの効率的かつ安定的な農業経営の指標	114 ~ 117
5 市政モニターアンケート調査結果	118 ~ 130
アンケート調査の概要	118 ~ 119
5-1 回答者の性別	120
5-2 回答者の年齢	120
5-3 回答者の居住地	120
5-4 長崎市の農業のイメージ	121
5-5 長崎市の農業との関わり	122
5-6 農業や農村が果たす役割の重要度	123
5-7 農業への従事の意向	124 ~ 125
5-8 長崎市の特産品	126
5-9 農業の体験やツアーへの参加の意向	127 ~ 128
5-10 長崎市の農業施策への期待	129 ~ 130
6 ながさきの「食」市民意識調査結果	131 ~ 142
市民意識調査の概要	131
回答者属性（性別・年齢・職業・家族構成）	132 ~ 133
食料品の買い物の場所	134
食料品選択のポイント	135
「地産地消」の良さ	135 ~ 136
地元生産物の購入頻度	136
地元生産物購入時の問題点	137
食料品購入の際に求める情報	138
「食育の日」「食育月間」の認知度	139
「食卓の日」の認知度と実施度	140
長崎市内産農産物・加工品についての認知・購入	141 ~ 142
長崎市内産農水産物を購入したい場所	143
長崎市内産農水産物・加工品についての情報源	144
7 用語解説	145 ~ 148